

現代日本語における「ところ」

——その意味と用法——

田山のり子

日本語の「ところ」は、いろいろな表現に用いられている。しかし、改めて「ところ」とはどんな言葉か、簡単に説明してくれと言わされた場合、答えに窮してしまう。そこで、ここでは「ところ」の持つ機能と意味を探り、その意味と用法の両面から大まかな整理分類を試みた。その際、外国人に対する日本語教育の立場から、学習者にいかにわかりやすく指導できるかということを念頭に置いた。又、特に学習者が混同しやすいと思われる用例はすべてとり上げたので、ある特定の品詞に限って分類をするということはわざと避けた。

資料分析のもとに、アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センターの Integrated Spoken Japanese I Volume One と Volume Two を使用したが、ここにある以外の用例については、他から拾い上げた。

「ところ」

「ところ」は、既存文法においては、名詞、形式名詞、接続助詞、(接尾語〈雅語〉)の各品詞に分類されている。しかし、ここでは特にそういった概念にとらわれずに考えて行きたい。

1. 「ところ」の持つ基本的機能

「ところ」は、名詞としての用法の場合でも、慣用的に「住所」の意で「お所」と使う以外、普通名詞の用法とは異なり、単独では用いられない。常にそのまま前に、「ところ」を限定する修飾部(指示代名詞、形容詞、名詞句、動詞句)を伴って表わされる。このように「ところ」にはその前に来る修飾部の内容を受ける、「受け皿」とでも言うべき形式名詞的役割がある。それと同時に、「ところ」は、ある内容を大まかに漠然と限定する「枠」という機能を持っているのである。しかし、それは又、逆に「ところ」自体は、それ自身が受けている内容によって限定され、何を具体的に意味しているかが決まってくると言える。

それでは次に、「ところ」の示す具体的意味について述べることにする。

2. 「ところ」の持つ基本的意味

「ところ」には大きく分けて、空間的・抽象的・時間的な3つの範囲を示す意味がある。(「基礎日本語2」、森田良行 参照)

①空間的範囲

空間において区切られた漠然とした具体的範囲を示す。この意味こそ、「ところ」の最も基礎的な意味であり、これを他の言葉に置き換えて言うならば、「場所・位置・地点・部分・箇所」などとなろう。

②抽象的範囲

この場合、「ところ」は主として、抽象的内容によって限定され、把握されるが、「点・観点・部分・箇所・側面・内容・水準・段階・程度・状態」などいろいろな意味で用いられる。

③時間的な範囲

「ところ」は時間の大体の範囲を表わす他、時間の区切り目としての役目も果たしている。

3. 具体的用例に基づく分類

意味と用法の両面から考察し、分類した。同時に、派生的な意味・用法のものも、まとめて記述した。

①場所：Place

これはある特定の場所、住所、位置、地点、付近、家、部屋、会社、店、事務所など、具体的な意味で用いられる。

〈例〉・深大寺っていい所ですってね。(ISJ-L.2)

- そんな所へ行くことはないよ。(ISJ-L.6)
- 私などは静かな所でないと仕事ができないほうで。(ISJ-L.6)
- 山下君の英会話、ずいぶんうまくなったね。あれくらいになりや、もうどんな所へだって出られるね。(ISJ-L.7)
- このくらい都心から離れた所に住むのも静かでいいですね。(ISJ-L.8)
- ね、こんなにうるさい所にいたんじ ゃ子供達も勉強できなくて困るでしょう。(ISJ-L.9)
- こないだ、佐藤と行ったとこの焼鳥、うまかったぜ。(ISJ-L.11)
- 喫茶店なんて私来た事ないけど、きれいな所ね。(ISJ-L.12)
- バスに乗る所はどこですか。
- 財布をしまった所を忘れてしまった。
- めがねは窓の所に置いてあったよ。
- 入口の所で待っているから。
- ここの所が痛いんです。

特に注目したいのは、日本語では、「私・友達・親」などの「人」を表わす言葉だけでは場所を示さないということであり、必ず、「～の所」というように場所化とでも言うべき使い方でもって、当人のいる「地点」とか「家」「店」など、それぞれの場合に応じた意味を持たせる。

- 〈例〉・一か月ぐらいアパートにいたかと思うと、すぐ友達の所へ行ったり、マンションに入ってみたり、親の所へ行ったりする始末ですからね。(ISJ-L.9)
- ・私のところでは、敷金も礼金もいただきませんよ。(ISJ-L.10))
- ・明日は、ちょっと用事があって、君んとこへ行けないかもしれないんだ。
(ISJ-L.11)

・あ、君、あとで私のところへ来てください。

又、慣用的表現にもよく使われている。

- 〈例〉・ここにお所とお名前を書いてください。

- ・所番地をたずねる。
- ・所書を持っていく。
- ・身の置きどころがない。
- ・所変われば品変わる。
- ・所嫌わずゴミを捨てるな。
- ・輸入品が所狭しと並んでいる。
- ・あの兄弟はそれぞれ所を得ている。

(=自分にふさわしい地位や仕事につく。)

- ・所言葉はおもむきがあつていいね。
- ・その土地のうまい物は、所の人が一番よく知っている。

この他に、もっと狭い範囲の具体的「部分」の意でも用いられる。

- 〈例〉・試験の答案を念のため、もう一度見直したら、違っている所が三か所もあった。
(ISJ-L.12)

- ・この文にはどこか理論的におかしいところがある。(ISJ-L.12)
- ・そして、さっきしるしをつけたところまで船がしずんだとき、その子供は言いました。(卷2-L.8)
- ・お肉、100g300円ぐらいのところうだい。
- ・お魚の切身、大きいところうだい。
- ・お銚子、熱いところ一本。
- ・打ちところが悪かった。

さらには、「ところどころ」という言葉はより狭い範囲の「部分」を具体的、かつ抽象的に表わしている点で次の分類への橋渡的なものといえる。

- 〈例〉・ところどころに家が建ち始めている。

- ・しかし、ことばが早いので、ところどころ聞きとることができませんでした。
(卷1-L.26)

②部分：Point

より狭い意味での限定された範囲ということで、①の意味の延長線上にある。観念的・抽象的意味での「点・観点・部分・箇所・側面・内容・場所」などを表わす。

- 〈例〉・たとえば「わが一統は慈悲深くなければいけない」というようなところから、慈

悲というような言葉を付けてくるとか……。(ISJ-L.3)

- A：終身雇用制についてどう思いますか。
B：いい所もあるかわりに、悪い所もありますよ。(ISJ-L.8)
- この会社のようなやり方にも、いい所があるかも知れないわね。(ISJ-L.8)
- あの子は絵にかけては、天才的な所がありますね。(ISJ-L.12)
- あの人の横顔にはどこか淋しそうなとこがあるね。(ISJ-L.12)
- さくらがさけばお花見をし、月がよければお月見をするしゅうかんは、日本人の自然を愛する心の深いところから生まれたものであります。(卷2-L.7)
- それは真に我々の意図するところではない。
- お酒の強いとこなんか、お父さんそっくりね。
- 何ら得るところがない。
- 思うところあって、会社をやめました。
- 泣きところをつかれた。
- 私にも含むところがある。
- あなたのおっしゃるところは、よくわかります。
- 私の願いとは反対の所にいつも答はある。
- あらゆる人から無視される所に愛は育たない。

③範囲

「ところ」に先行する動詞句の示す抽象的内容の範囲を表わす。これは、①②の意味の拡大解釈にすぎない。

〈例〉・政府が発表したところによると、昨年の国際収支は黒字だそうだ。(ISJ-L.6)

- 聞くところによると、彼は日本語がなかなかできるそうです。
- 私が知っているのは、大体こんなところです。
- ちょっと見たところでは、どこが悪いかわからない。
- 見聞きしたところを述べる。
- 私の知るところでは、彼はブラジルでかなり成功しているようだ。

このほか、「数がところ」をいう表現で、「数」によって修飾され、おおよその数量並びにその数量の表わす範囲のものを示す慣用的な言い方もある。

〈例〉・あめ玉、1つ10円がところ、さしあげましょか。

- 温泉も3日がところもいれば、退屈になってくる。
- みかん、500円がところもお入れしましょか。

④程度：Level

ある水準・段階・程度に達した状態を具体的あるいは抽象的到達的として表わす。

これは「まで」を伴って使用されることが多い。

〈例〉・手紙は、こんなところでいいでしょう。(ISJ-L.2)

- そういうことが言えるところまで来れば、もう日本人と同じですよ。(ISJ-L.3)

- 研究もだいぶ進んで、あとは論文を書けばよいところまで来ました。(ISJ-L.3)
- A：研究のほう、どうですか。だいぶ進みましたか。
B：そうですね。七分通りというところです。
- 宗教が完全に姿を消してしまうというところまでは行っていないにしても、現代人の生活から宗教的な感覚が薄らぎはじめている事は事実である。(ISJ-L.7)
- あの人の日本語もずいぶんうまくなったが、まだ字引なしで新聞を読むところまではいっていない。(ISJ-L.7)
- 家庭の電化が進んで来たが、まだ電子レンジが普及するところまでは行っていない。(ISJ-L.7)
- そうだなあ。でもまだ国際会議の通訳が出来るところまでは行っていないだろう。(ISJ-L.7)
- それこそ、こちらの望むところです。
- そのへんが、ちょうどいいところでしょう。
- これくらいのところでどうでしょう。〔値段・品質・数量の程度〕

⑤程度の強調

「～どころじゃない」、「～どころの騒ぎじゃない」の形で、常に否定を伴ってその程度状態を否定する。そして、言外に、あるいは続けて、それ以上の状態であることを強調する場合と、その反対の逆接的なことを表現する使い方がある。「どころ」の前には動詞・形容詞・名詞がくる。

- 〈例〉
- 痛いどころの騒ぎじゃない。死ぬかと思った。
 - 困るどころの騒ぎじゃない。泣きたいくらいでしたよ。
 - 人手不足で若い人のごきげんとりとり使わなきゃならないんで、教育するどころじゃないんでしうね。(ISJ-L.11)
 - 休みになつたら疲れがどつと出て、旅行に出るどころじゃなかつた。(ISJ-L.12)
 - 家族が病気で、旅行どころではない。
 - 今はそれどころじゃないよ。

⑥「～どころか、……」の形で文を接続させていく用法である。意味的には、言い切りの形の「～どころじゃない」、「～どころの騒ぎじゃない」と同じく、前件を適当でないと否定し、その程度を強調する、もしくは逆接表現の意で用いられる。

- 〈例〉
- 困ったどころか、泣きたいくらいでした。
 - 休んだ事がないどころか、遅刻した事さえないのでから、みんなが感心したとしても当然だろうに、誰も感心しようとはしない。(ISJ-L.8)
 - A：今日は涼しくて助かりますね。
B：涼しいどころか寒いですよ。(ISJ-L.8)
 - A：彼、かなりできるようですね。
B：かなりどころか先生よりうまいくらいですよ。(ISJ-L.8)

- 音が気になるどころか、うるさくて眠れませんでした。
- A：旅行どうでした。よかったです。
B：それが、よかったですどころか、たいへんだったんです。車が故障してしまって…。(ISJ-L.8)
- もうかるどころか、損ばかりしている。
- 何も知らないどころか、その道の専門家ですよ。

⑦時

「ところ」の持つ漠然とした限定の機能は、「時」の場合にも生かされ、時を表わす語を中心としたおおよその時間帯を表わす。

- 〈例〉・今のところ、女の学生同士で行って、文学だの人生だのと議論しているらしいけど。(ISJ-L.12)
- もうちょっとのところで、車にひかれるところだった。
 - 今日のところは許してやる。
 - このところ、寒い日が続いております。
 - あ、ちょうどいいところに来た。頼みたいことがあるんだ。
 - このコピー、早いとこ頼むよ。
- (=早く)

またさらに、これは流れる「時」を動詞の時制で区切ることによって、その「時点」を表わす言い方につながる。「V-たところ」の形で、動詞の過去形を用い、その動詞の表わす内容の直後の時点を示す。

- 〈例〉・ご勉強が終ったところなんですね。(ISJ-L.6)
- あのう、今、読みかけたところなんで、そのままにしといてください。(ISJ-L.9)
 - 帰りかけたところへいくつも電話が来て遅くなってしまった。(ISJ-L.9)
 - 今、お電話しようとしていたところです。

このほか、時を表わす言葉と共に、「V終止-ところ」の形で、その動詞の表わす内容の直前の状態・状況を表わす用法もある。

- 〈例〉・〔もう少しで泣く〕ところだった。
- 〔今、出かける〕ところです。
 - 〔すんでのところで、車にひかれる〕ところだった。

この場合、もし時を表わす言葉がなければ、時間的限定を受けない「状態」を単に表わすことになる。それを次に述べよう。

⑧状態

時を表わす言葉を伴わずに、単に物事の状態・場面などを説明的に表わす意で用いられる「ところ」の用法。それゆえ、動詞の表わす内容の直前や直後という時間的限定は受けない。

- 〈例〉・普通なら怒られるところである。

- 来ないところをみると、忙しいんだろう。
- 一度で済むところを、印を忘れたため、二度出かけた。
- 盗むところを人に見られた。
- スキーでころんだところを写真にとられた。
- お休みのところ、申し訳ございません。
- お急ぎのところ、列車が遅れましてご迷惑をおかけしております。
- お忙しいところ、突然伺いまして。

一方、物事の状態や状況・場面・様子を前につく動詞の時制という「時」によって限定して表わす用法に「V-ているところ」(最中)がある。

〈例〉・手紙書いてるところだよ。(ISJ-L.1)

- いっこうに進まないで、困っているところです。(ISJ-L.3)
- 少しおそくなつたんで、タクシーを待っているところです。(ISJ-L.5)
- 僕の弟もながら族になっちゃって、困ってるところなんだ。(ISJ-L.6)
- ほくあ、どっちとも言えないでるところなんだよ。(ISJ-L.7)
- それにもかかわらず、わざわざこんな厳しい機械を化粧品の宣伝に使っていようと見ると、この機械には現代人の精神的傾向に訴える、ある特別の魅力があるのだろう。(ISJ-L.7)
- いま、この書類見てるところなんだよ。(ISJ-L.8)

この⑧の「状態」を表わす「ところ」は動詞を体言化させる働きのある格助詞「の」に置き換えることも可能である。

⑨原因

「V-ているところから」又は、「V-ていたところから」の形で、「ところ」の前につくそれぞれの動詞の示す時制での状態全体を「ところ」で受けとめ、それに「から」をつけて原因を表わす。「ところから」を「ので」に置き換えても意味は通ずる。

〈例〉・悟りの境地に達することを目的とする禅は、武士のものの考え方や生活態度によく通ずるものを持っていたところから、武士の間で好んで行なわれるようになつたのである。(ISJ-L.2)

- 江戸時代に、長い間鎖国が行なわれていたところから、現在でも島国根性が残っている。(ISJ-L.2)
- 米ソ関係が悪化しているところから、中立国も外交問題に気を使うようになってきている。(ISJ-L.2)
- 公害問題が大きくなってきているところから、無公害エンジンの早急な開発が望まれている。(ISJ-L.2)

⑩結果

「V-たところ(が)」の形で、「ところ」の前には常に動詞の過去形が来て、結果を表わす。「が」をつけた場合は、その結果に、予想や意に反して、という気持が入り

意外性を付与する感じになる。

- 〈例〉・このことについて、田中さんに相談してみましたところ、実習をするなら野村さんの工場は綿織物も絹織物も手広くやっていらっしゃるからいちばんいいでしょうと言って、すすめてくださいました。(卷2-L.4)
- 食べてみたところ (が)、意外においしかった。
 - 先日伺ったところ (が)、御病気でお目にかかれませんでした。

〔参考〕 この⑩の結果意識は、「所」が古代中国語で受身の意で用いられたのを直訳した表現に由来したものとされている。

(「日本国語大辞典」小学館・「基礎日本語2」森田良行 参照)

- 〈例〉・ついには、人のうらやむところとなった。

(二人にうらやまれる)

- 万人の憎むところとなる。

(=万人に憎まれる)

この場合、漢文が「～するところとなる／なった」と訳されると、「なる／なった」自体に結果の意があるのだが、後には、その「なる／なった」のとれた、単に「V-たところ」だけで結果を表わし、文の接続用法として用いるようになったのであろうか。又、この結果の意外性を示す「V-たところが」から、接続詞の「ところが」の用法が生まれてくると思われる。

⑪ 「～。ところが、……」

「ところが」は、「～した。」という前件の結果を受けて、後件に自分の意や予想に反したという意外性を表わす接続詞である。そのため、前件と直接的な矛盾関係に立たない後件も来得るが、その場合には、「しかし・けれども・だが・だけど・でも」のような直接的に逆接関係を表わす接続詞との置き換えは不自然である。

(「基礎日本語2」森田良行 参照)

以下にその例を示すと、

- 〈例〉・時間になったので家を出た。ところが、私の留守中に友だちが訪ねてきらしい。

(基礎日本語2)

- 彼のことを父に聞いてみた。ところが彼はもう日本にいないらしい。(基礎日本語2)
- ある村に村じゅうでいちばんけちだといわれているチンというおじいさんが住んでいました。そして、自分でもそうだと思っていました。
ところが、となり村に「出すものは舌を出すのもいやだ。」というものすごくけちなソウというおじいさんのいることを聞いて、ある日むすこに向かってこう言いました。(卷2-L.1-3)

以上とは別に、「ところが」のより一般的な用例としては、前文の内容を受けて、その事実とは直接的に反対のものとか、自分の意や予想に反したという内容の後件を導く。これは、前件から後件が直接導かれる逆接関係である。この場合には「しかし・けれども・だが・だけど・でも」といった他の接続詞との置き換えが可能である。

- 〈例〉・中村さんは、ある会社の社員で、この会社に入ったのは数年前の好景気の頃だった。……
ところが、最近、不景気になって異変が起こってきた。(ISJ-L.8)
- ・A：今年は豊作だってね。
 B：うん、農家の人はうれしいだろうね。
 - A：ところが、そうでもないらしいよ。米がそれすぎて、かえって困ってるんだ
 ってさ。(ISJ-L.8)
 - ・A：今度、二・三人首になるらしいよ。
 B：じゃ、中村君、駄目かな。
 - A：ところが、そうじゃないんだよ。もっとひどいのがいるらしいよ。(ISJ-L.8)
 - ・A：きょうはデートだろう。
 B：ところがね。それが行けなくなっちゃったの。これから残業なの。(ISJ-L.8)
 - ・実は私の友達の息子さんにちょうど保夫君のような子がいましてね。働いてみたいと言うんですよ。ところが親は息子の言うことを聞かないで、無理に高校へ行
 かせたんです。(ISJ-L.10)
 - ・このもんだいはたいへんやさしそうです。ところが、なかなかできません。(卷1-L.28)

⑫ 翻訳調

⑩で〔参考〕として述べたように、漢文の「所」に由来する結果の用法から、近代においては西欧語の関係代名詞の翻訳からきた書き言葉的表現が生まれた。前の文が「～ところのN」の形で連体格となり、後に来る名詞を説明する。「ところの」を省いても意味は変わらない。

- 〈例〉・彼が熱愛するところの女性は、まだうら若い美しい人である。
- ・この問題は「近代化」という歴史的過程におかれているすべての社会が、何時かは経験するであろうところのものである。
 - ・世間でいっぽんに言うところの「自由」とは、「したいことをしてよい。」という意味のようです。
 - ・この両者は、対立するところのものである。
 - ・見るところのもの、すべてが珍しかった。

⑪ 「V-たところで、…」の形で、前件に述べる内容を仮定し、それにより積極的な結果が期待できないことを表わす。「V-ても」「V-たとしても」「V-たからといって」に置き換えが可能である。

- 〈例〉・損をしたところで、たかだか五千円ぐらいのものですよ。(ISJ-L.4)
- ・今さら行ったところで仕方がない。
 - ・私が言ったところで、言ることは聞くまい。
 - ・何回やったところで、結果は同じだろう。
 - ・怒ってみたところで、始まらない。
 - ・それなら、だめにしたところで、惜しくはない。

⑭ 「～。ところで、……」

話題を180度変える時や、新しい話のきっかけとして用いる接続詞である。又、同じ話題の視点を少しずらした場合にも使うが、その時は、「それで」でも置き換えられる。

〈例〉・それを見て、チンおじいさんは感心して、「さすが大先生だけあって、ちがったものだ。紙一まい使っていない。」と言いました。

ところで、こんどは話が変わってソウ大先生の家です。(卷2-L.1-3)

- いつもいろいろとお世話をなっております。ところで、今日伺ったのはほかでもないんですが、ちょっとお聞きしたいことがあります。
- 採用が決定しました。ところで、実際いつから来られますか。
- 明日のパーティー、あたしも招待されたの。ところであなた、何着ていくの。
- 私はいいお話を思うんですがね。ところで、あなたのほうはどう思っているの。

さて、「ところ」の持つ基本的な機能と意味、及びそこから派生的に出てくる用法は以上の通りであるが、その基本的意味機能は、すべて名詞の「ところ」からくることが次の一覧表からわかる。

関連	No.	意味	範囲	表記	品詞
範囲	①	場所: Place	空間的 (具体的)	漢字「所」	名詞
	②	部分: Point	抽象的	漢字又は 仮名 「ところ」	名詞
	③	範囲	抽象的 (具体的)	仮名	名詞
	④	程度: Level	具体的又は 抽象的	仮名	名詞
状態	⑤	程度の強調: ～どころじゃない	抽象的	仮名	副助詞
	⑥	～どころか、……	抽象的	仮名	接続助詞
時状態	⑦	時	時間的	仮名	名詞
	⑧	状態	抽象的 (具体的)	仮名	名詞
結果	⑨	原因: ～たところから	抽象的	仮名	名詞
	⑩	結果: V-たところ(が)	抽象的	仮名	接続助詞
	⑪	～。ところが……	——	仮名	接続詞
	⑫	翻訳調: ～ところの N	抽象的	仮名	形式名詞
	⑬	V-たところで、……	抽象的	仮名	接続助詞
	⑭	～。ところで、……	——	仮名	接続詞

最後に、「ところ」という言葉を総括的に概観すると、それは何枚も繞いた屏風のようなものとしてとらえることができるのではないだろうか。屏風の一面一面には、「ところ」の持つそれぞれの異なる意味や用法が納まっている。そして、これらは範囲だとか、状態だとか、時だとか、あるいはまた単に同じ「ところ」という音によって、順番につながっていて、一枚の屏風となっているのである。この屏風をたたんでしまえば、一つの「ところ」という言葉になるという点で、こういった見方が出来得るであろう。言葉の持つおもしろさをかいま見た思いがする。 <終>

〈参考・引用文献〉

- 「日本国語大辞典」小学館
「広辞苑 第二版」岩波書店
「新明解国語辞典 第二版」三省堂
「外国人のための基本語用例辞典 第二版」文化庁
「基礎日本語2」森田良行 角川書店
「Integrated Spoken Japanese I Volume One・Volume Two」アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター(「ISJ」と略した)
「日本語読本一」「日本語読本二」国際学友会日本語学校編(「卷一・卷二」と略した) (1981.11.27)